

令和6年度 第2回三木市文化財保護審議会次第

日 時：令和7年3月27日（木）

午後1時30分～4時

場 所：みき歴史資料館 3階 講座室

1 開 会

2 報告事項

- (1) 令和6年度文化財保護事業実績について【資料1】
- (2) 国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁の発掘調査について【資料2】
- (3) 市指定史跡愛宕山古墳（下石野5号墳）の発掘調査について【資料3】

3 協議事項

- (1) 令和7年度文化財保護事業計画について【資料4】
- (2) 国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁の整備について【資料5】
- (3) 市指定文化財の指定計画について【資料6】（非公開）

4 その他

5 閉 会

三木市文化財保護審議会 委員名簿

	役職	氏名	分野	備考
1	委員	<small>みやた</small> 宮田 <small>としたみ</small> 逸民	城郭史	再任
2	委員	<small>よりふじ</small> 依藤 <small>たもつ</small> 保	日本法制史	再任（公募）
3	委員	<small>ふじた</small> 藤田 <small>ひとし</small> 均	郷土史	再任
4	委員	<small>ちぐさ</small> 千種 <small>ひろし</small> 浩	文化財保存	再任
5	委員	<small>なかくぼ</small> 中久保 <small>たつお</small> 辰夫	考古学	再任
6	委員	<small>やまだ</small> 山田 <small>たかお</small> 貴生	民俗	再任（公募）
7	委員	<small>かがみ</small> 各務 <small>としあき</small> 寿晃	仏教美術	新任（公募）

※ 任 期 令和6年6月1日から令和8年5月31日

令和 6 年度文化財保護事業計画について

1 事業計画

事業名	内容	実施日	実施場所
文化財保護審議会	〔第 1 回目〕 ・令和 6 年度文化財保護事業計画について他 〔第 2 回目〕 ・令和 7 年度文化財保護事業計画について他	10 月 30 日 3 月 27 日	みき歴史資料館
歴史・美術の杜推進事業関係 (1) 啓発関係	歴史ウォーク① 這田村法界寺山ノ上付城跡コース 参加者 39 人	4 月 17 日	這田村法界寺山ノ上付城跡他
	歴史ウォーク② 近世絵図で歩く三木城跡 参加者 30 人	5 月 19 日	三木城跡
	三木城二の丸跡発掘調査体験イベント 参加者 15 人	11 月 16 日	三木城二の丸跡
	歴史ウォーク③ 秀吉本陣跡コース 参加者 24 人	11 月 24 日	秀吉本陣跡他
	三木城本丸跡・二の丸跡発掘調査現地説明会 参加者 41 人	12 月 7 日	三木城本丸跡・二の丸跡
	歴史ウォーク④ ホースランドパーク周辺付城跡コース 参加者 19 人	2 月 16 日	明石道峯構付城跡他
	歴史ウォーク⑤ 愛宕山古墳・正法寺古墳コース 参加者 16 人	3 月 9 日	愛宕山古墳他

(2) みき歴史資料館	企画展① 写真で振り返る三木市の 70年 来館者 2,667人	4月20日～ 6月23日 (57日間)	みき歴史資料館
	企画展② 上田桑鳩展～書の流儀～ 来館者 2,021人	7月27日～ 9月29日 (56日間)	みき歴史資料館
	企画展③ 地域の歴史を次世代へ— どこにでもあるけど、そこ にしかないもの— 来館者 1,671人	10月19日～ 12月22日 (56日間)	みき歴史資料館
	企画展④ 別所町の秋祭り屋台展 来館者 2,191人	1月25日～ 3月23日 (48日間)	みき歴史資料館
	企画展特別講演会、歴史講 座、体験教室	随時	みき歴史資料館
	歴史資料館協議会	10月17日 3月12日	みき歴史資料館
(3) 三木城跡及 び付城跡・土 塁の整備	発掘調査検討委員会	8月8日 11月21日	みき歴史資料館
	三木城本丸跡・二の丸跡確 認調査	11月12日～ 12月13日	三木城本丸跡・ 二の丸跡
埋蔵文化財発掘 調査等	①包蔵地照会件数 340件 ②届出件数 93条 13件 94条 0件 ③指導事項 慎重工事 10件 工事立会 3件 本発掘調査 0件 ※2月末時点	4月～3月	市内
	開発等にかかる緊急調査 ①確認調査 0件 ②工事立会 2件 ※2月末時点	随時	市内

	学術調査 (92 条) 1 件 愛宕山古墳 (市指定史跡) ※調査主体 大阪大学	2 月 28 日～3 月 19 日	別所町下石野
埋蔵文化財維持・管理等	遺跡管理除草作業 委託業者：(公社) 三木市シルバー人材センター 直営：市職員	随時	三木城跡及び付城跡・土塁、正法寺古墳、与呂木青葉台古墳、愛宕山古墳、有安 2 号墳他
	三木市地図情報システム導入に係る周知の埋蔵文化財包蔵地等の GIS データ整備	6 月～3 月	市内
展示公開	別所ふるさと交流館埋蔵文化財展示室において、別所町の遺跡等を紹介	4 月～3 月	別所町下石野
文化財実態調査	『三木の石造品Ⅳ－志染地区編－』作成のための調査等を実施 調査ボランティア 4 人	4 月～3 月	市内

2 資料貸出等

依頼者	資料名	目的	許可日
ハーベスト出版	画像資料 別所長治画像	『毛利・織田戦争と城郭』に掲載するため	6 月 14 日
エディキュープ	画像資料 三木合戦軍図	『歴史人』増刊号印刷版および電子版に掲載するため	8 月 29 日
明石市	画像資料 慈眼寺 銅鐘	『新修明石市史通史編Ⅱ 明石の古代・中世・近世 (仮)』に掲載するため	10 月 4 日
朝日新聞出版	画像資料 三木合戦軍図	『歴史道』Vol. 36 印刷版および電子版に掲載するため	10 月 9 日
朝日新聞出版	画像資料 別所長治画像	『歴史道』Vol. 36 印刷版および電子版に掲載するため	10 月 17 日
加古川市立松風ギャラリー指定管理者加古川市美術協会	木内内則氏作画 「三木城攻め付城群」	「中世播磨の城 復原図展—CS 立体図による新発見—」において展示するため	10 月 25 日
播州三木染形紙 WEB 美術館	画像資料 「筒井俊雄氏所蔵	「播州三木染形紙 WEB 美術館」ホームページ内にて、	12 月 7 日

	染形紙」の全体画像及び一部拡大画像 3,129点	「筒井俊雄所蔵染形紙 展示室」を作成し、掲載するため	
たつの市教育委員会	久留美丈ノ越古墳出土金層ガラス玉 2点	令和6年度 埋蔵文化財センター特別展「ガラス玉—古代人を魅了した小さきものたち—」に出品するため	1月10日
たつの市教育委員会	画像資料 久留美丈ノ越古墳出土ガラス玉 2点 吉田3号墳出土ガラス玉 3点 正法寺10号墳出土ガラス玉 1点	令和6年度 埋蔵文化財センター特別展「ガラス玉—古代人を魅了した小さきものたち—」展示解説図録等に掲載するため	1月10日
テレパック	画像資料 三木合戦軍図	BS11「偉人・敗北からの教訓 #82 竹中半兵衛」の放送で使用するため	1月25日
エディキュープ	画像資料 三木合戦軍図	『歴史人』4月増刊号「復刻版 歴史人 日本の城 基本のき」の印刷版および電子版に掲載するため	2月13日
テレコムスタッフ	画像資料 這田村法界寺山ノ上付城跡・朝日ヶ丘土塁 赤色立体地図(1/2500)	「先人たちの底力 知恵泉」『豊臣秀吉』の放送で使用するため	2月23日
宮帯出版社	画像資料 這田村法界寺山ノ上付城測量図	金松誠「秀吉の陣城の特徴」(中井均編『秀吉の城』所収)に掲載するため	3月5日

※3月5日時点

3 講演等派遣事業

依頼元	内 容	講師	実施日	実施場所	参加者
三木市老人クラブ連合会	役員研修 愛宕山古墳の案内	金松誠	9月6日	愛宕山古墳	20人
大阪府高齢者大学校	武家政権の合戦地探訪科 「三木城籠城戦」	金松誠	9月20日	大阪府社会福祉会館	26人

大阪府高齢者 大学校	武家政権の合 戦地探訪科 「三木合戦の 地を歩く」	金松誠	9月27日	三木城跡 他	24人
三木市立広野 小学校PTA	人権講演会「三 木飛行場と特 攻隊」	金松誠	10月8日	広野小学 校	130人
うれしの友の 会	歴史講座「新史 料「羽柴家文書 写」から見た三 木合戦」	金松誠	10月24日	兵庫県立 嬉野台生 涯教育セ ンター	60人
三木市高齢者 福祉センター	高齢者生きが いセミナー「新 史料「羽柴家文 書写」から見た 三木合戦」	金松誠	1月21日	三木市高 齢者福祉 センター	15人
兵庫考古学談 話会	第50回例会 「三木城の縄 張構造に関す る復元的研究」	金松誠	2月9日	みき歴史 資料館	21人

4 図書発行

書籍の名称	編集・発行	発行部数	発行日
三木市文化研究資料第39集 『筒井俊雄氏所蔵染形紙調査報告書』	三木市教育委員会	200部	1月31日

5 指定文化財に係る補助事業（市随伴）

事業者	指定文化財の名称	内容
伽耶院	伽耶院	<ul style="list-style-type: none"> ・三坂明神社本殿の屋根の全面葺き替え（国庫補助） ・ナラ枯れ等の伐採（国庫補助） ・消防設備保守点検（県補助）
東光寺	東光寺本堂	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備保守点検（県補助）
歎喜院	歎喜院聖天堂	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備保守点検（県補助）
天津神社	天津神社本殿	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備保守点検（県補助）
稻荷神社	稻荷神社本殿	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備保守点検（県補助）

6 文化関係団体の育成及び活動支援

事業名	内 容	実施日	実施場所
<p>地域文化財総合活用推進事業</p>	<p>伝統文化の保存団体が地域の伝統文化を継承するため実施する伝承者等の養成、用具等の整備、映像記録の作成に対し、文化庁の補助事業によって一定の限度額の範囲で事業支援する。</p> <p>1 伝統文化継承基盤整備事業 祭りの屋台・獅子舞等地域の文化遺産継承のために用いる用具の新調・修理事業 新調・修理した用具を使った体験事業や一般公開を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 下町屋台保存会 支援内容 屋台用具水引幕の修理、扇子のメッキ修理 ・ 大手町屋台保存会 支援内容 屋台用具屋根（枅組・台輪・井筒）の修理、布団締・房の新調 ・ 東條町公民会 支援内容 法被の新調 ・ 御坂神社御弓神事保存会 支援内容 弓の新調 ・ 花尻自治会 支援内容 屋台用具屋根（隅木・雲板）の修理 	<p>4月～3月</p>	<p>市内</p>

国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁
の発掘調査について

1 所在地

兵庫県三木市上の丸町775番、840番

2 調査目的

保存目的のため

3 調査主体

三木市教育委員会

4 調査担当者

三木市教育委員会 文化・スポーツ課 金松 誠

5 発掘調査作業委託業者

安西工業株式会社

6 調査の種別

確認調査

7 調査期間

令和6年11月12日～12月13日

8 調査の内容及び実施の方法

(1) 内容

- ・ 調査区を3か所設置。
- ・ 調査面積 168m²
R6-1 12m²、R6-2 121m²、R6-3 35m²

(2) 実施の方法

- ・ 重機等による表土等の掘削
バックホーにより、各層ごとに第1遺構面(最上面)まで掘り下げた。
- ・ 人力による遺構面の検出等
調査方法は平面での確認を原則とし、必要に応じて遺構の断ち割り等を行った。

9 調査の概要

(1) 三木城本丸跡・二の丸跡の概要

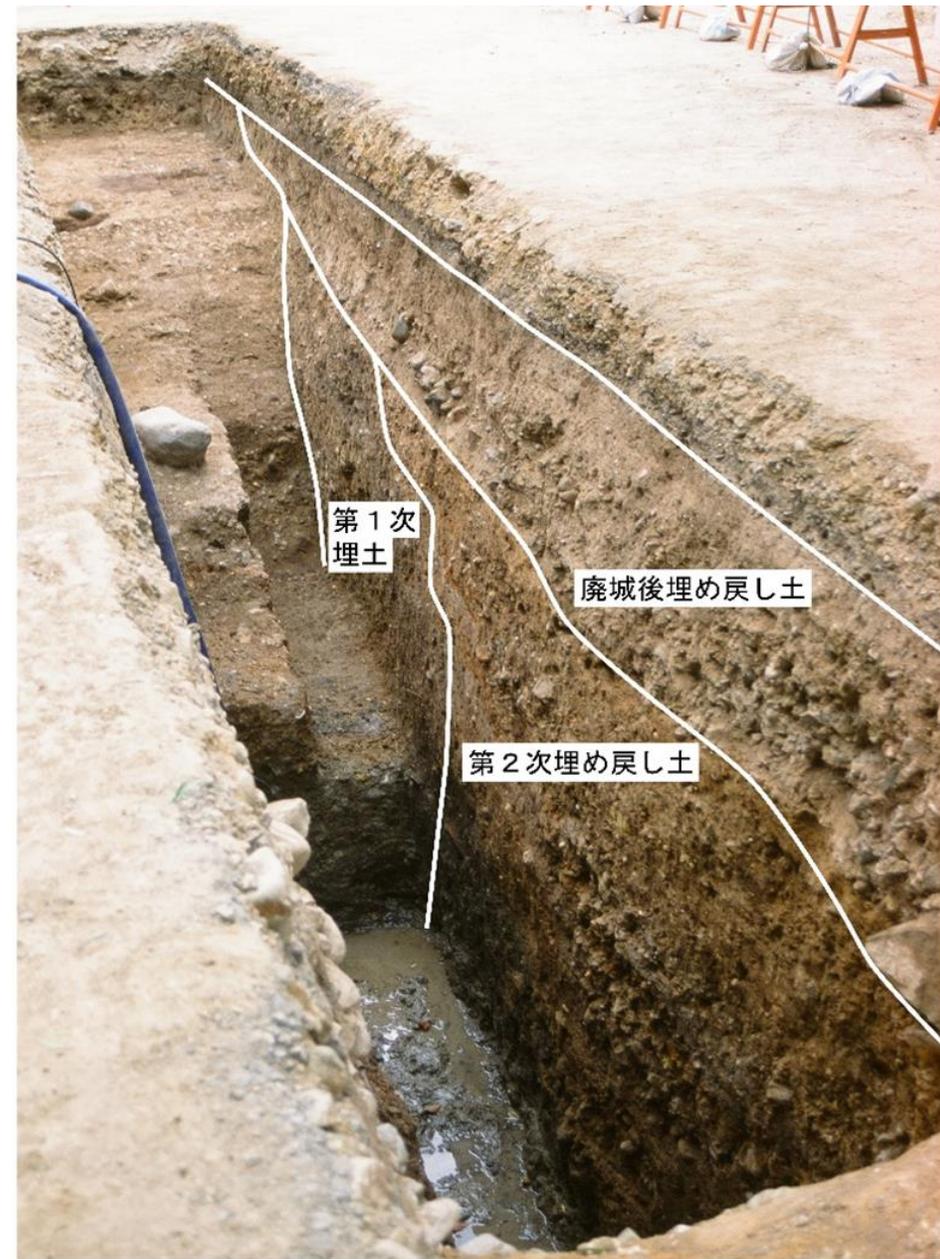
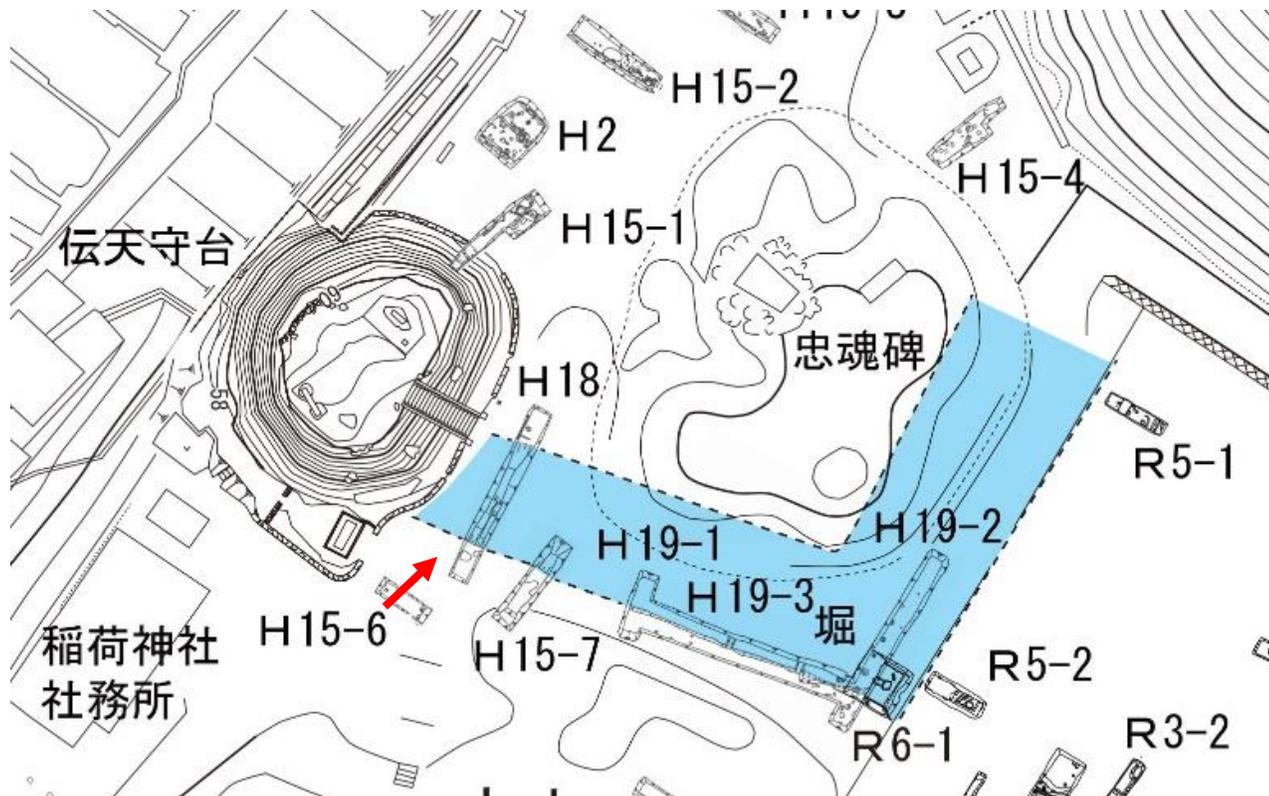
①本丸跡

- 標高61m、比高20m。台地北西端に位置。
- 西辺中央には伝天守台、北西端付近にかんかん井戸が現存。
- これまでに、平成2・15・18・19・令和3・5年度に発掘調査を実施。
- 瓦葺き礎石建物が存在。
- 内部を堀で区画。
- 伝天守台は堀が埋まった後に造成。
- 上の丸保育所跡は、近現代における地形改変に伴い、遺構の残存状況が良くないことが判明。浅い遺構は削平を受けて消滅した可能性が高い。



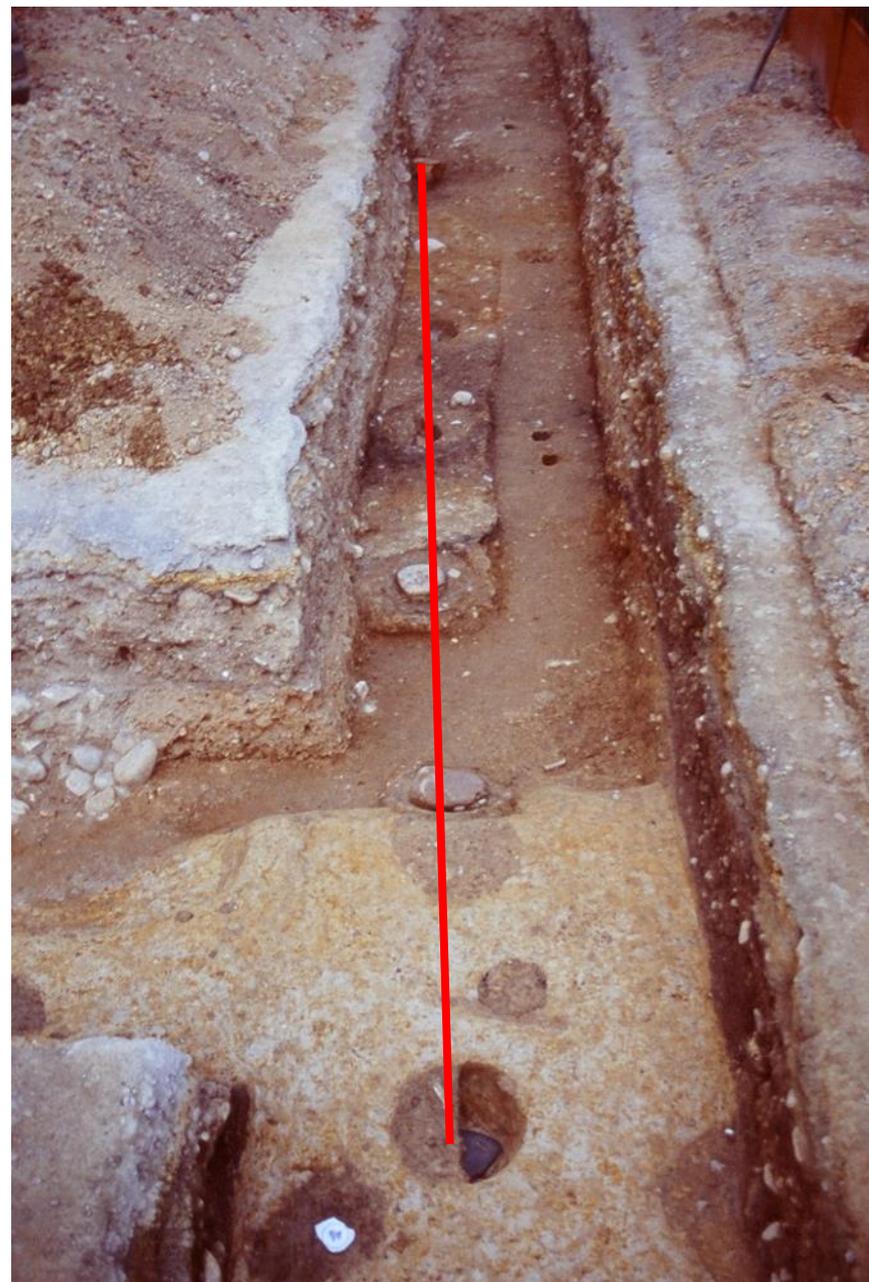
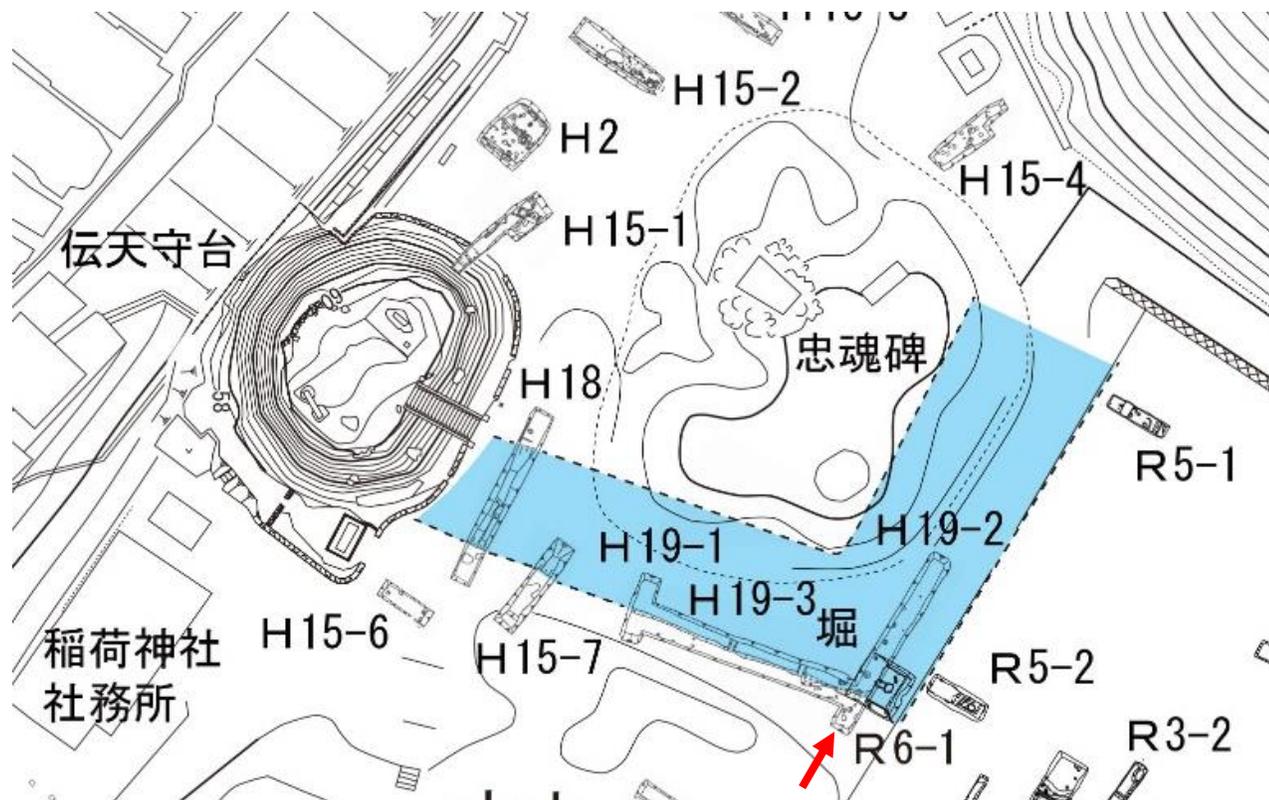
堀

- L字状を呈し、幅9m、深さ3mを測る。一度部分的に埋まり(第1次埋土)、掘り返された後、16世紀後半以降に埋め戻されている(第2次埋め戻し土)。



H18 堀土層断面(南西から)

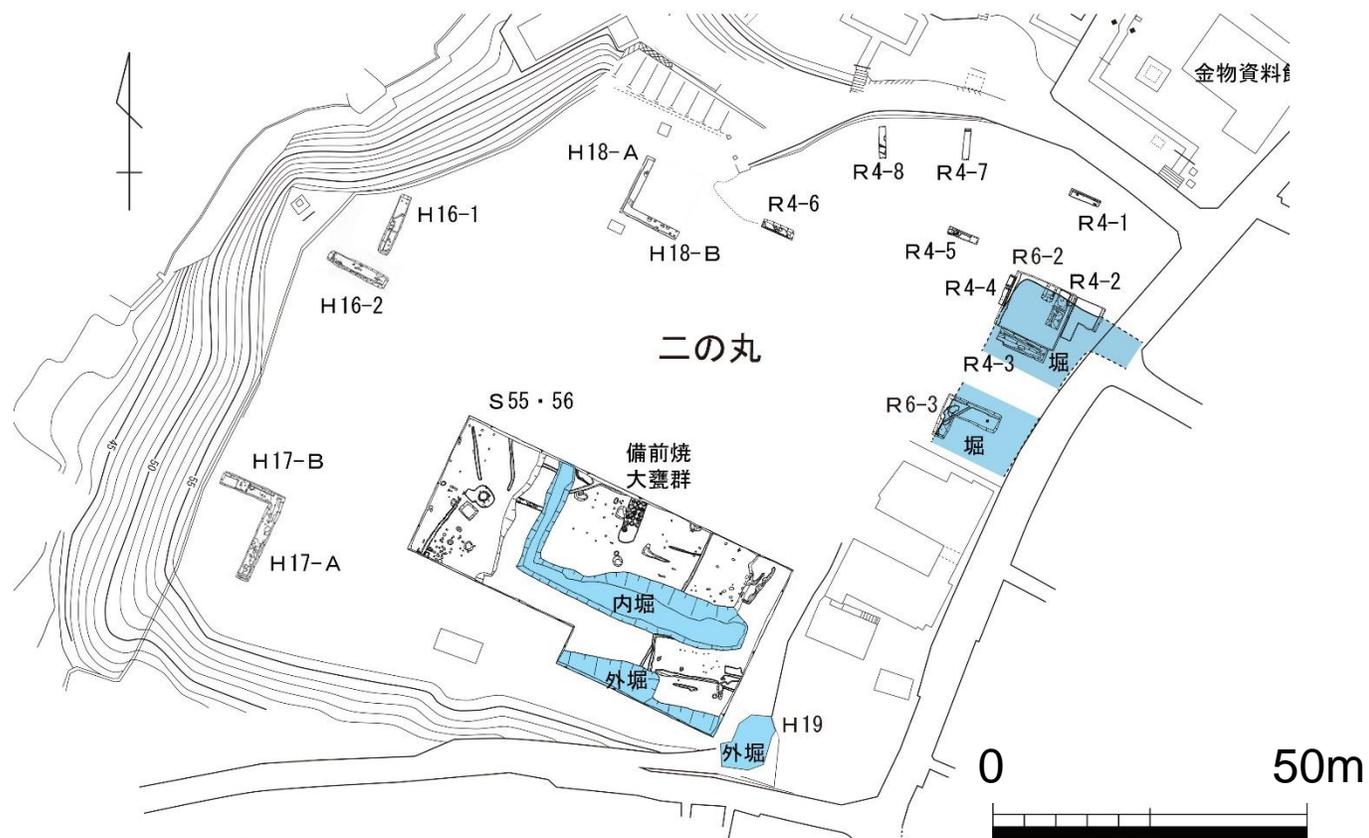
- その後、16世紀末頃以降にその上面において礎石建物と伝天守台が築造されていることが判明。堀からは土師器皿や瓦が多く出土。



H19-2 堀埋土上面礎石列

②二の丸跡

- ・ 標高57m、比高17m。本丸の南西に位置。
- ・ 「播州三木古城図」によると、東側虎口がL字状の堀で形成されている。
- ・ これまでに、昭和55・56・平成16～19・令和4年度に、発掘調査を実施。
- ・ 特にR4-2・3において、絵図に描かれた堀を検出。



三木城二の丸跡測量図



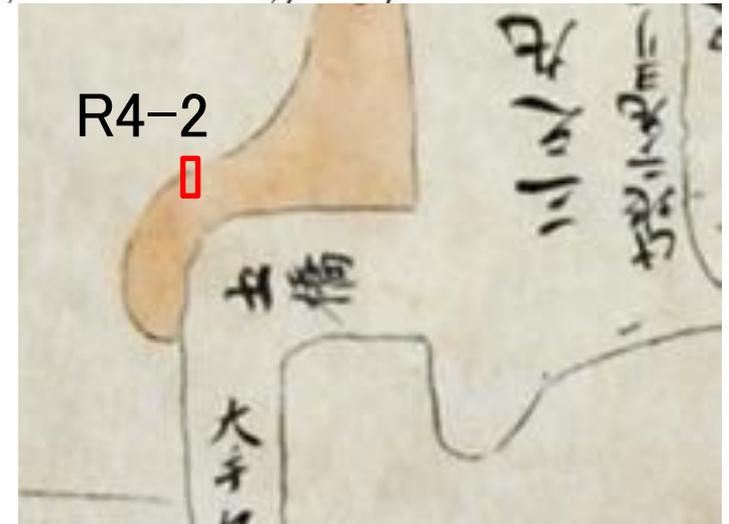
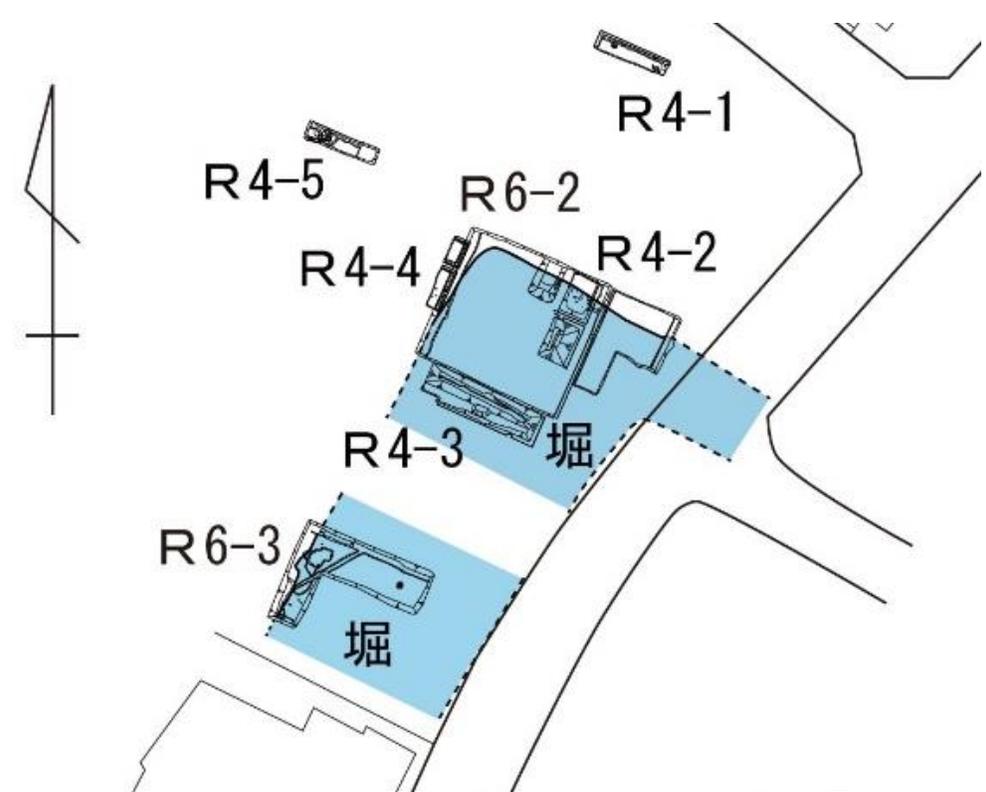
播州三木古城図

R4-2

- 表土直下の第1遺構面において、堀を検出。
- 堀はトレンチ北側で東西方向の肩を検出し、深さは2.4m以上を測る。



R4-2 堀検出状況(西から)

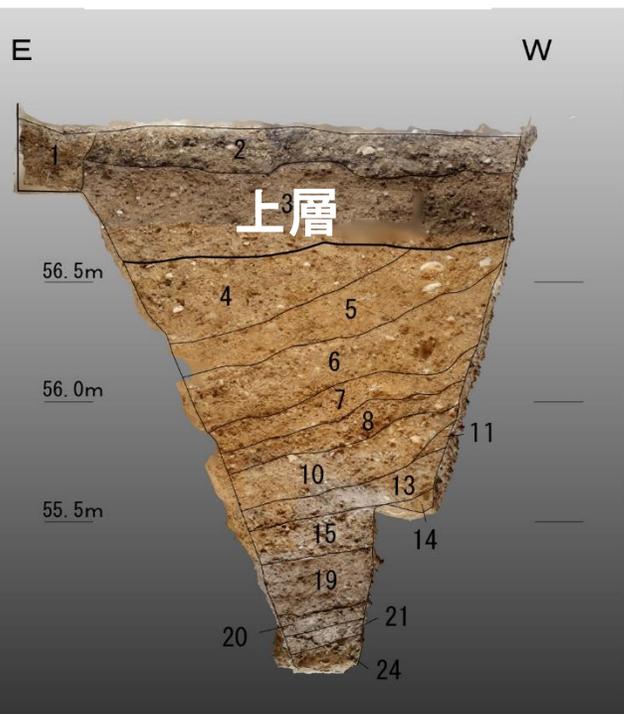


播州三木古城図

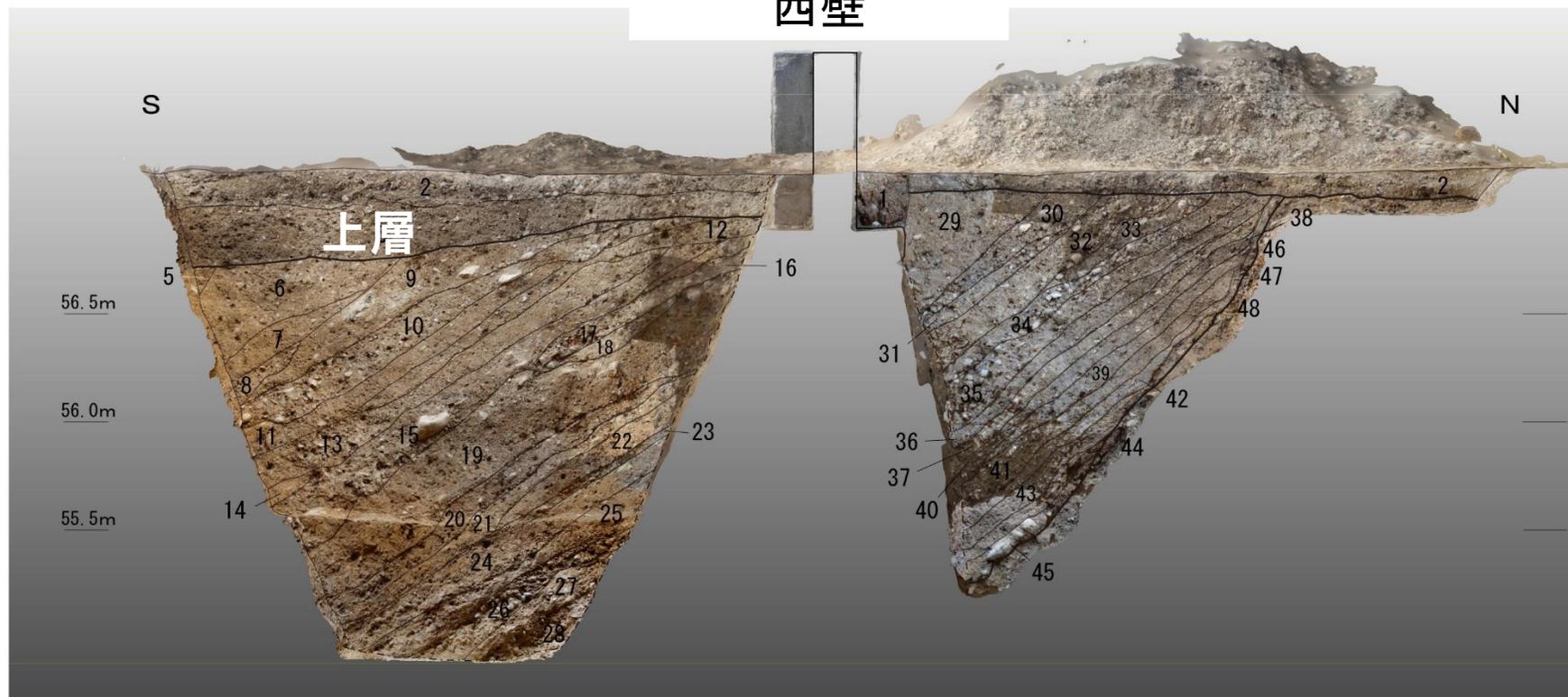
- 上層は出土遺物から18・19世紀頃の埋土とみられ、それより下の層は堀肩から南斜め方向の堆積が幾層にもわたってみられることから、一気に人為的に埋められたものと判断できる。

→下層は1615年の廃城時？

南壁



西壁



R4-2 堀土層断面

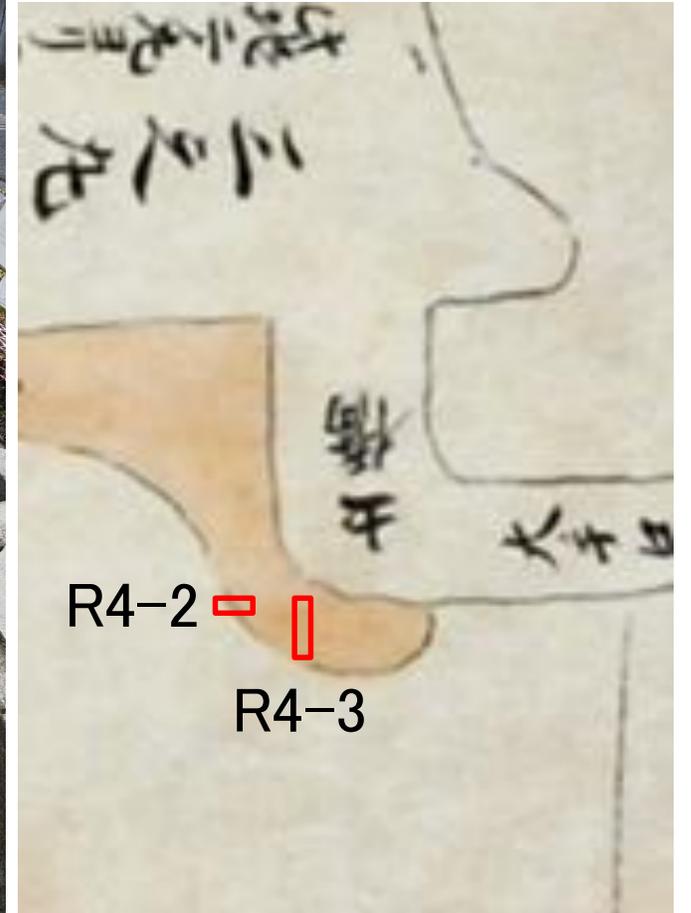


R4-3

- 表土直下で堀を検出。
- トレンチ全体が堀となっており、深さは2m以上を測る。



R4-3 堀検出状況(西から)



播州三木古城図

- 上層は近代の埋土であり、中層もR4-2の上層と同一層とみられることから、18・19世紀頃の埋土と考えられる。
- 下層は堀肩が想定される西方向から埋められている様相が確認できた。R4-2ほどではないが、堆積が幾層にもわたってみられることから、同様に一気に人為的に埋められたものとみられる。



R4-3 堀北壁土層断面(南東から)

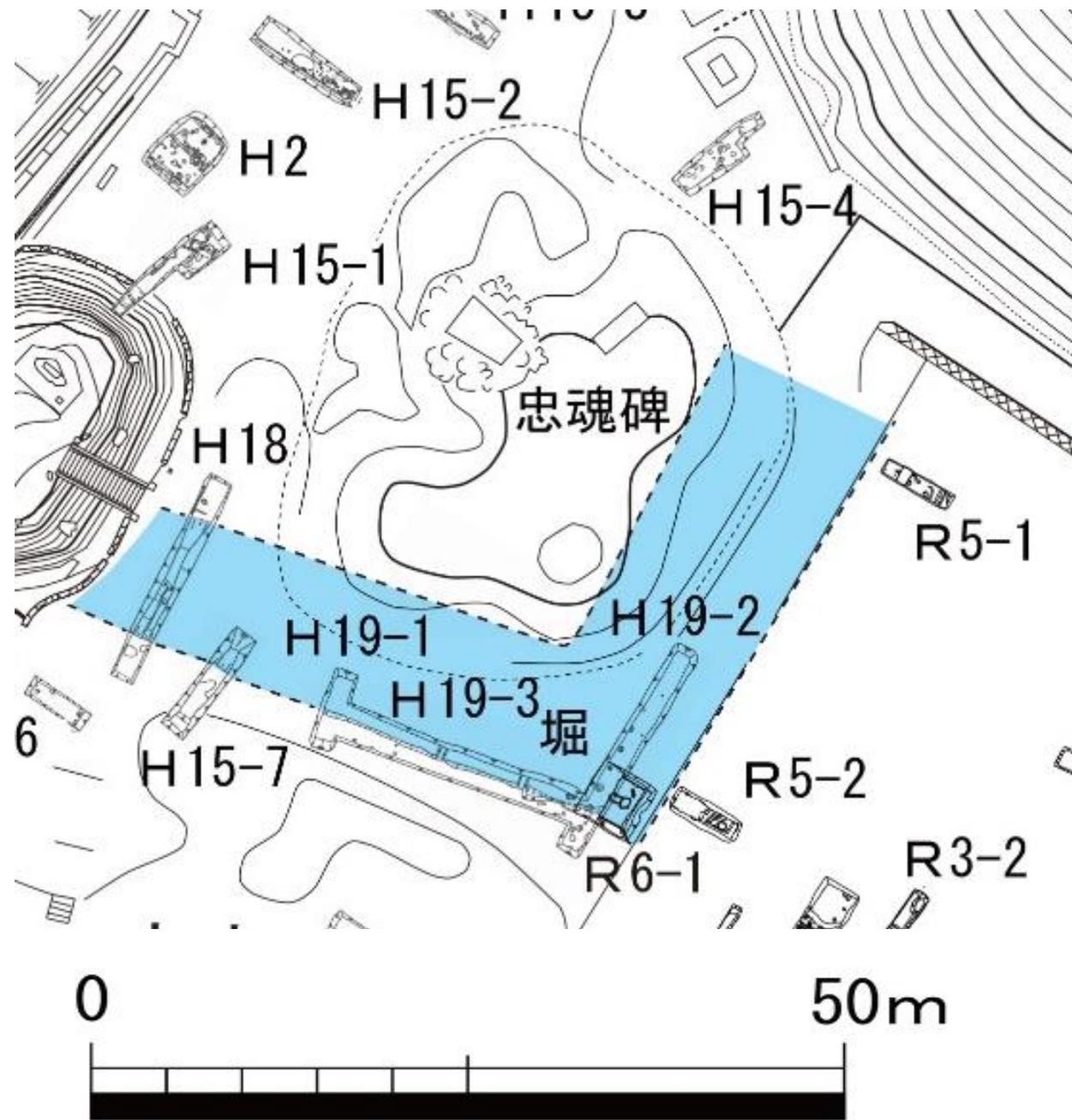


R4-3 堀東壁土層断面(西から)

(2) 各調査区の概要

三木城本丸跡 R6-1

- H19-2で検出した堀の南肩延長部分を検出。
- 当初想定していた東肩の検出には至らず。
- 東肩はこの調査区とR5-2の間であることが判明。
- 堀南肩東隅は、南東へ湾曲する。
- 堀の上層のみ断ち割ったところ、埋土は自然堆積ではなく、一気に埋め戻されていると判断できる。





R6-1 堀検出状況(攪乱掘削、断ち割り後)(西から)



R6-1 北壁 堀土層断面(南から)



R6-1 東壁 堀土層断面(南西から)



R6-1 南壁 堀土層断面(北から)

- 堀東肩の検出が想定されたが、今回の調査区では見つからなかったため、さらに東側にあるものと考えられる。

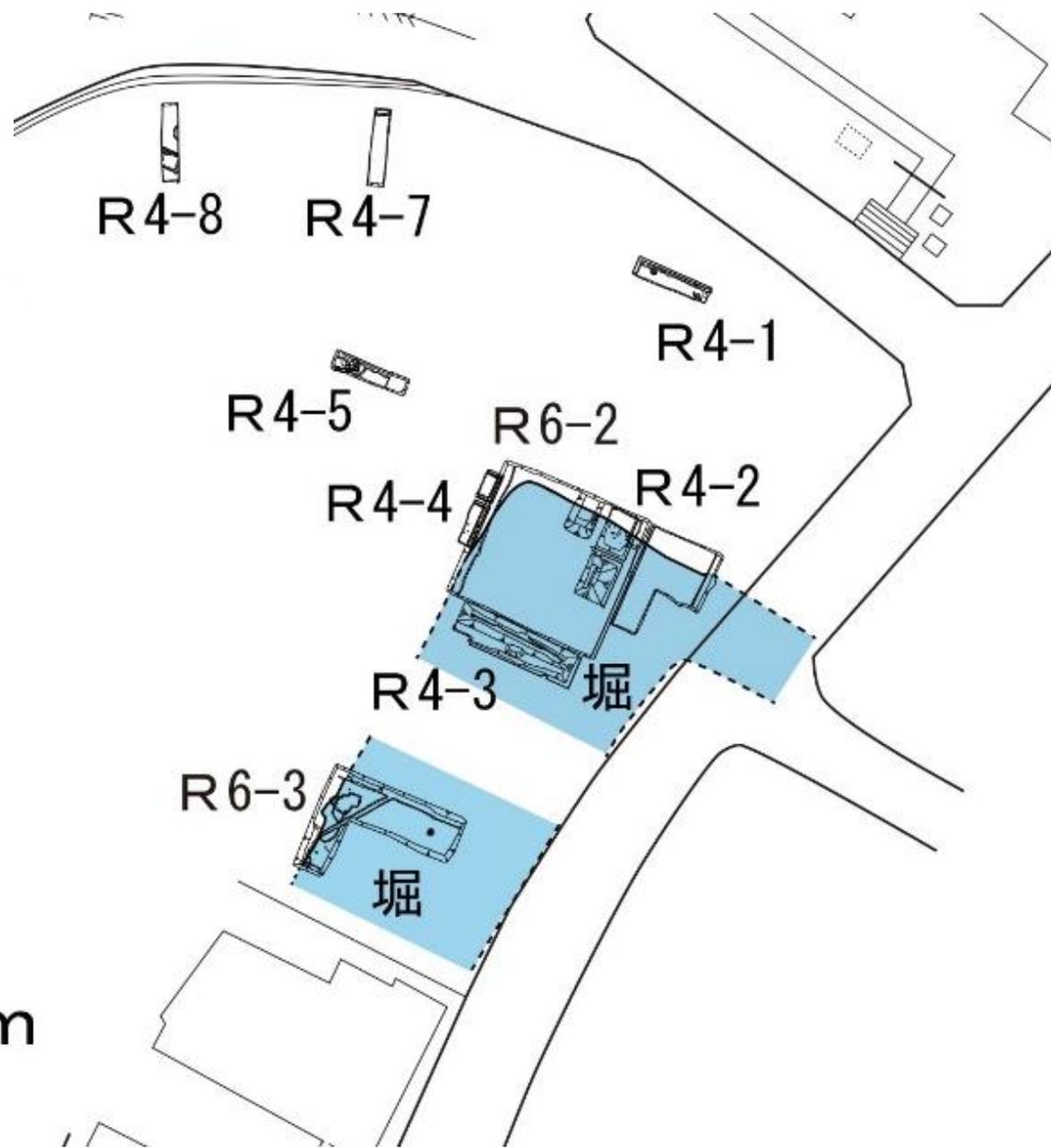


R6-1 空中写真(上が北)

三木城二の丸跡

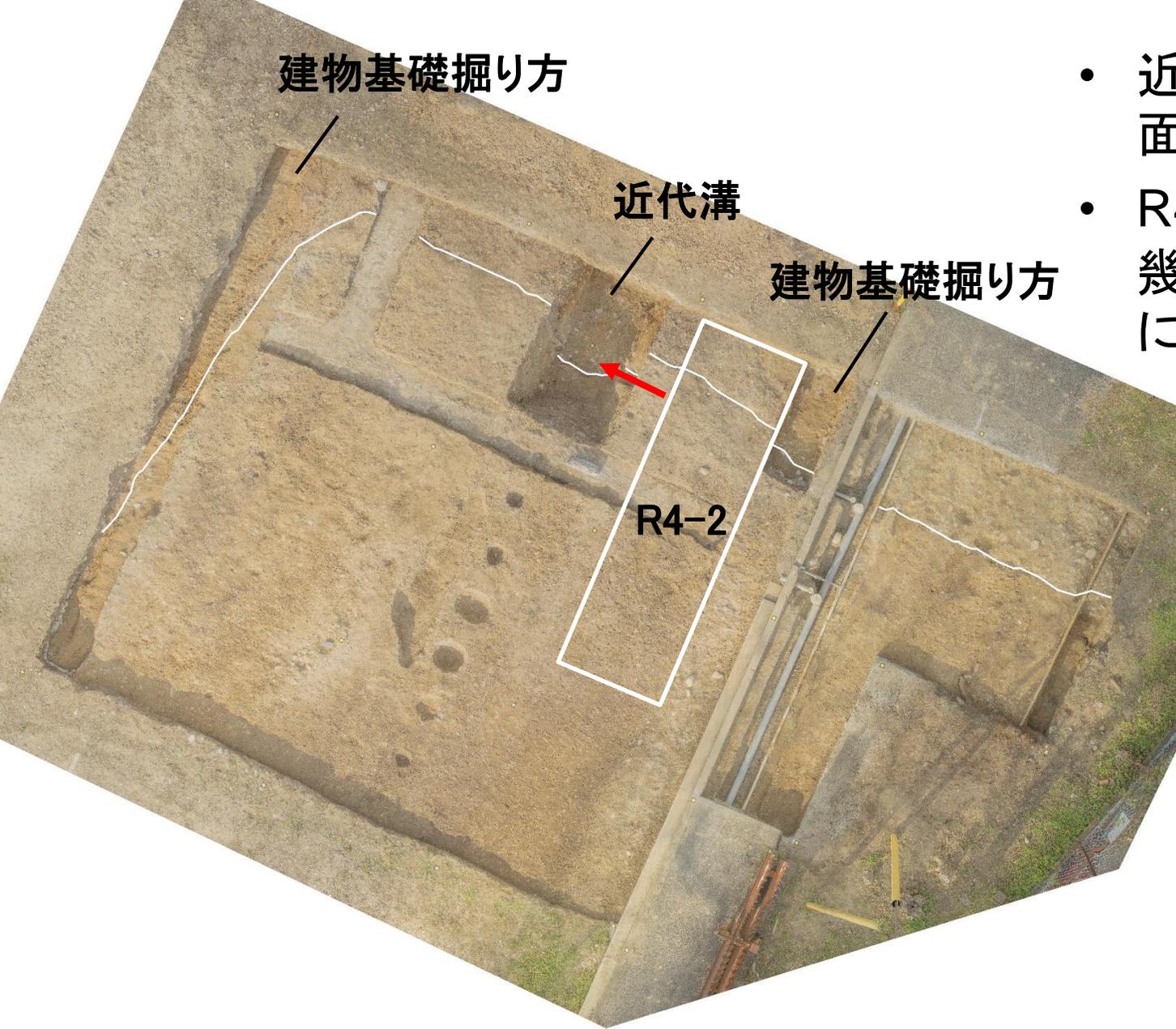
R6-2

- 令和4年度調査で見つかったL字状の堀の北肩及び西肩を検出。





R6-2 堀検出状況全景(西から)



R6-2 空中写真(上が北)

- 近代溝の北端部のみ完掘し、堀の土層断面を確認した。
- R4-2同様、堀肩から南斜め方向の堆積が幾層にもわたってみられることから、一気に人為的に埋められたものと判断できる。

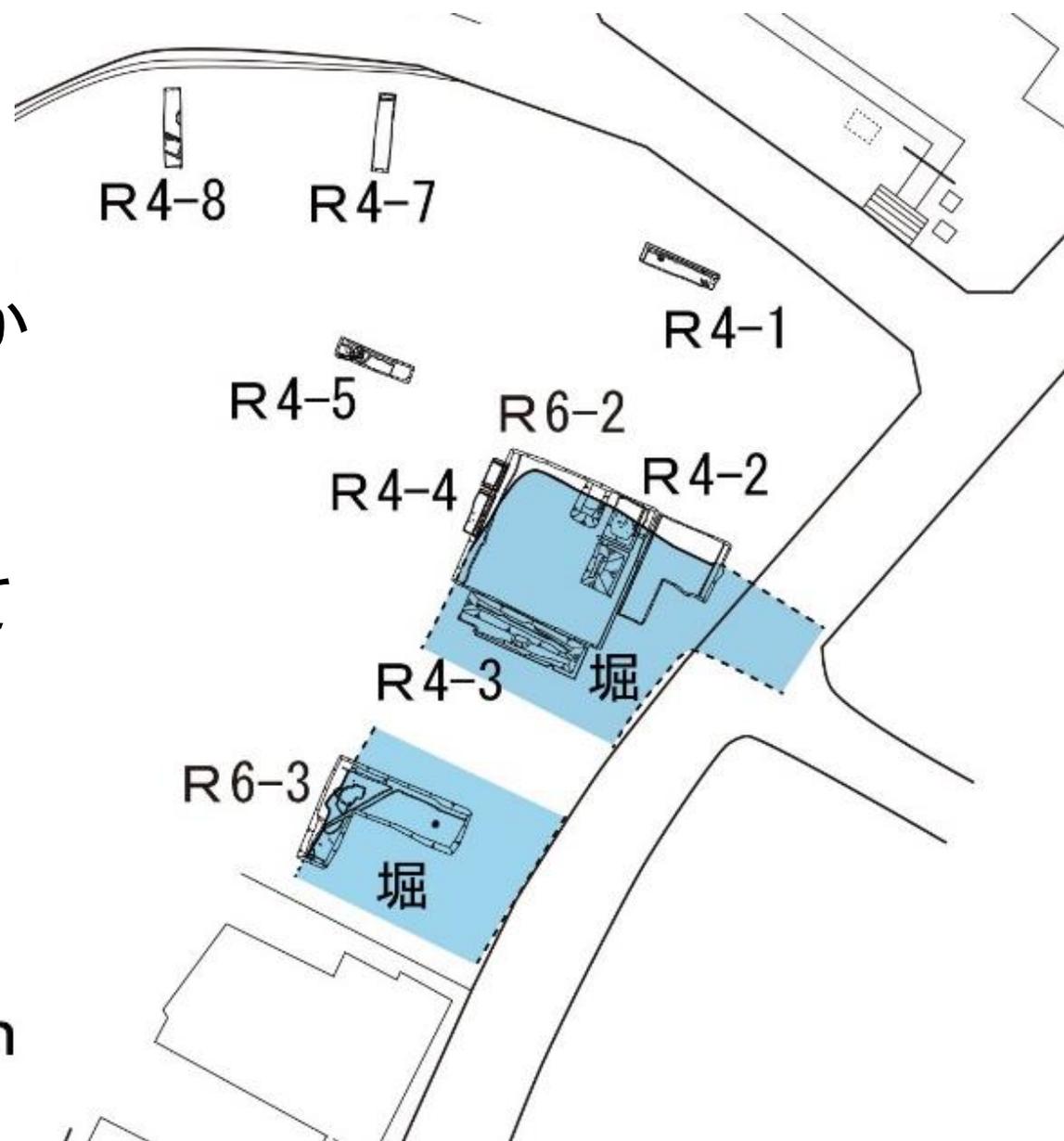


R6-2 堀土層断面

三木城二の丸跡

R6-3

- L字状の堀の南側延長部分が見つかった。
- 堀西肩を検出。
- 堀は調査区外の南側にさらに延びていく。





R6-3 堀検出状況(西から)



R6-3 堀西肩検出状況(西から)



R6-3 堀西肩 北壁土層断面(南から)



R6-3 南壁土層断面(北から)

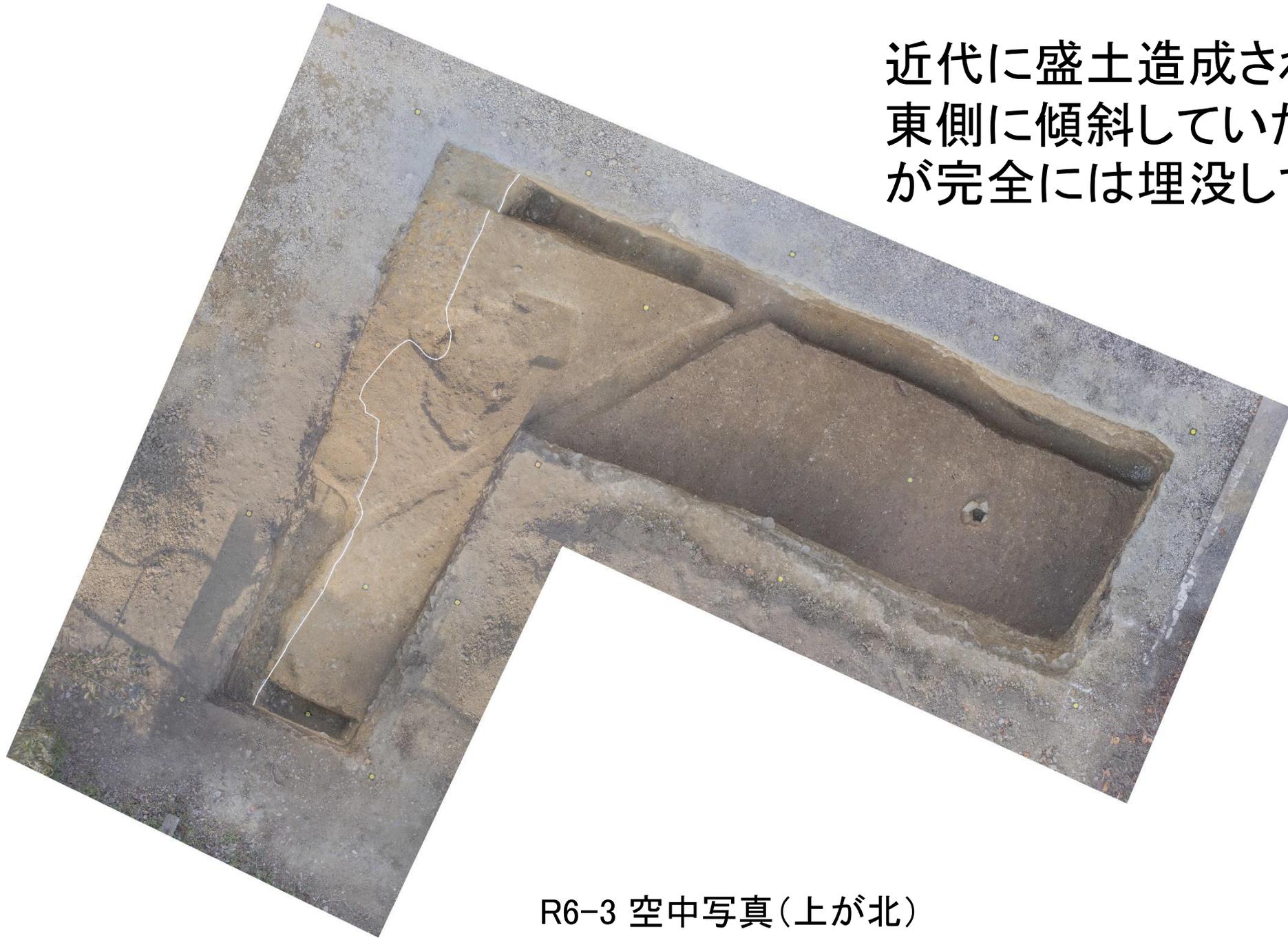


R6-3 北壁土層断面(南西から)



R6-3 北壁土層断面(南東から)

近代に盛土造成されるまでは、
東側に傾斜していたことから、堀
が完全には埋没していなかった。



R6-3 空中写真(上が北)

(3) まとめ

- 二の丸跡で見つかった堀については、『播州三木古城図』にL字状に描かれていたことから、前回調査の段階では虎口(出入り口)を形成するものであったと推測していた。
- ただ、R6-3よりさらに南に堀が延びていくことが判明したことにより、再考する必要が生じた。
- R6-2・3間について、堀が途切れて通路となっていたのか、それとも繋がっているのか、今後の検討課題。

市指定史跡愛宕山古墳（下石野 5 号墳）の発掘調査について

- 1 発掘調査成果について
現地説明会資料のとおり
- 2 今後の計画について

り出している箇所には東西 7.0m、南北 1.5mの調査区を設けました。

調査区東半では、表土直下で約 1.5m範囲にひろがる攪乱孔^{かくらんこう}を検出しました。攪乱孔には、こぶし大程度の礫が多数充填され、内部からは焼土塊や土器、陶磁器、瓦が出土しています。陶磁器類はおおむね 19 世紀代に位置づけられるもので、愛宕山古墳が当該期以降に二次的な改変を受けていたことが判明しました。

攪乱孔や流土の掘削を行うと、調査区西端から 1.0m～2.9mの範囲において、西から東にむかって傾斜する盛土層（黄灰色粘質土）を検出しました。この盛土による斜面の下半ではこぶし大の礫が密に配されており、墳丘斜面上に葺かれた葺石であると考えられます。

西から東にむかって傾斜する墳丘斜面は、調査区西端から 2.9mの箇所で傾斜変換点をもち、以東では地山とみられる黄灰色粘質土に切り換わります。この傾斜変換点が後円部東側の墳丘裾とみられ、主軸上の後円部墳丘裾を基準とした復元ラインに比べて 3mほど内側に入ります。南北方向に伸びる尾根に造営される愛宕山古墳の後円部は、南北方向が直径 57m程度と長く、東西方向が直径 54m程度と、やや短い不整な円形を呈していたことがわかりました。

出土遺物 今回の調査では 140 点をこえる埴輪、土器、陶磁器、瓦、古銭が出土しました。その中でも、古墳に伴う遺物としては埴輪が挙げられます。埴輪では円筒埴輪の体部片が多くを占め、突帯^{とつたい}（円筒埴輪に水平方向に貼り付ける粘土紐）付近に連続した刻み目を施すという特徴的な手法が確認されます。同様の資料は過去 2 年間の調査でも得られており、この独特な手法が愛宕山古墳の埴輪全体に共通することがわかりました。

また、円筒埴輪の上部に壺を載せた形態を模した朝顔形埴輪、あるいは壺形埴輪^{うじょうもん}の破片も新たに得ることができました。これらにも同様に刻み目が付されており、とりわけ「羽状文」と呼称される、連続する「く」の字状の文様を施す個体が存在する点は特筆されます。同様の文様は山陰地域で盛行するものであり、当古墳の埴輪に山陰地域からの一定程度の影響を読み取ることも可能です。埴輪の内外面調整やスカシ孔形状・配置などから古墳時代前期中ごろ（4 世紀前半）以前に位置づけられます。

まとめ

今回の調査では、①後円部主軸上では石列を境として上段には葺石が配されていたこと、②後円部東側において墳丘裾が判明し、後円部が地形に制約される形で南北方向に長い不整円形を呈していたこと、③後円部東側でも葺石が確認されるなど、墳丘斜面では各所に葺石が施されていたこと、がわかりました。

また、主軸上、東側の双方を調査したことで、両者での墳丘構築方法の違いも明らかになりました。具体的には、主軸上では墳丘 1 段目が地山整形で、地山に含まれる礫を葺石と見立てていた可能性がある一方、東側では墳丘 1 段目から盛土を行い、葺石も施工されている様子が確認されました。加古川流域における最古級の大型前方後円墳の築造方法が判明したことは、当地域の古墳時代像を検討するうえでも大きな意義をもつといえるでしょう。

最後に、今回の調査において多大なるご協力をいただいた三木市教育委員会、市史編さん室をはじめ、別所ふるさと交流館のみなさま、そして地元である下石野のみなさまに、改めてあつく御礼申し上げます。

今回の調査は、科学研究費補助金によるプロジェクト「初期ヤマト政権の地域統合原理の解明と比較考古学的手法によるその人類史的評価」ならびに『新・三木市史』考古資料編刊行に向けての調査プロジェクトに基づくものです。
なお、今回の調査内容は現時点での成果に基づくものであり、今後の整理等によって変更が生じる可能性もあります。

2024 年度 愛宕山古墳 発掘調査説明会資料

2025 年 3 月 15 日（土）



編集・発行 大阪大学考古学研究室

調査の概要

古墳名：愛宕山古墳（下石野 5 号墳）
所在地：兵庫県三木市別所町下石野
調査主体：大阪大学考古学研究室
協力：三木市教育委員会・市史編さん室
調査期間：2025 年 2 月 28 日～3 月 19 日予定

はじめに

大阪大学考古学研究室では、三木市教育委員会・市史編さん室の協力のもと、別所町下石野所在の愛宕山古墳の発掘調査を実施しています。愛宕山古墳は、美囊川と加古川とが交わる、交通の要衝に築かれた前方後円墳です。愛宕山古墳が築かれた古墳時代（3 世紀中ごろ～6 世紀）には、全国各地で古墳が築かれ、その総数は大小含め 16 万基以上とされています。その中でも愛宕山古墳のような大規模な前方後円墳は、当時の政治の中心である「ヤマト政権」との深いつながりを示すものと考えられています

一方で愛宕山古墳では過去に墳丘部分を対象とした発掘調査はなされておらず、また築造時期の手がかりとなる埴輪資料もわずかしか得られていませんでした。そこで大阪大学考古学研究室では 2022 年度より、墳丘の構造や古墳が造られた時期の解明を目的として発掘調査を開始しました。今回は 3 ヶ年の計画のうち 3 年目にあたり、後円部の規模や墳丘構造を明らかにする目的で 2 か所の調査区を設定しました（主軸トレンチ、東トレンチ）。

発掘調査の成果

主軸トレンチの成果 今年度は、2023 年度に調査を行った北トレンチと南トレンチの間の部分に加えて、墳端や石列の追究を目的として東側への拡張を実施しました。

2023 年度北トレンチと南トレンチの間では、傾斜角度 23 度程度の緩やかな斜面が検出され、下半部ではこぶし大の礫群が良好に検出されました。これらの礫群は盛土とみられる黄褐色砂質土に突き刺すように配されることから、墳丘斜面に葺かれた葺石^{ふきいし}であると考えられます。なお、この葺石について、今回の調査範囲では目地などは確認されず、裏込め（葺石の下部に配される小礫群）も認められませんでした。

また、斜面の傾斜角度などから、昨年度までに検出された石列はこの葺石の基底をなす石であった可能性が出てきました。一方で、石列の外側では、テラス面（墳丘斜面の途中に設けられる平坦面）は明確には整形されず、墳丘下方に向かって緩やかに地山が傾斜していく様子が確認されます。墳丘下半では地山の傾斜を利用しつつ、斜面中途に石列を配することで疑似的に段築成を作出していた可能性も想定されます。

トレンチの南側では、昨年度に検出した墳丘裾の追究を目的として、1mの拡張を行いました。東側では遊歩道の造成に伴う削平などにより墳丘裾は失われていましたが、西側では昨年度の墳丘裾ラインの延長で、地山層の傾斜の変換点を確認しました。

東トレンチの成果 後円部径の規模および墳丘構造の解明を目的として、現地地形が舌状に張

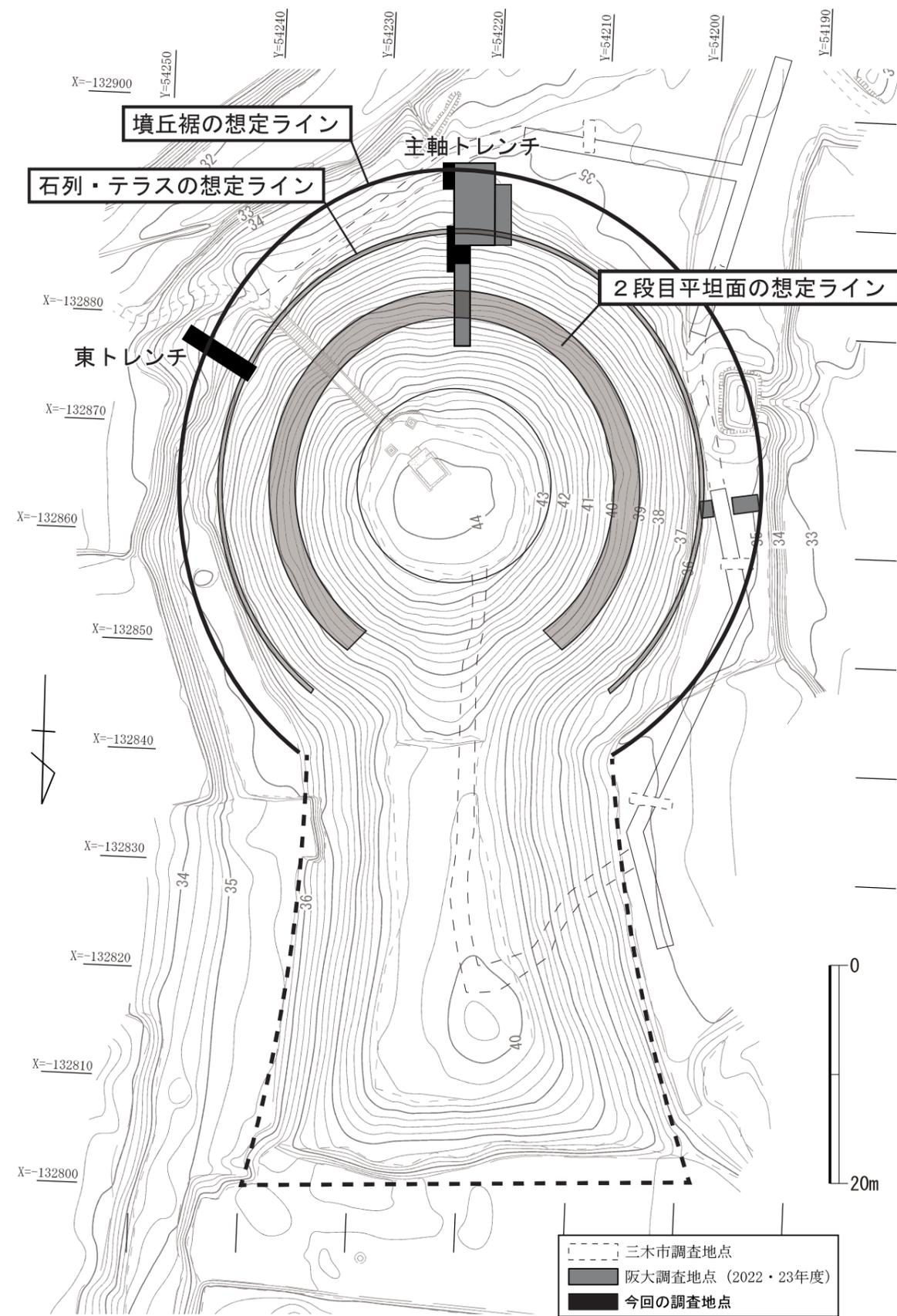


図1 愛宕山古墳 墳丘復元図
(大阪公立大学岸本直文研究室作成図に加筆)

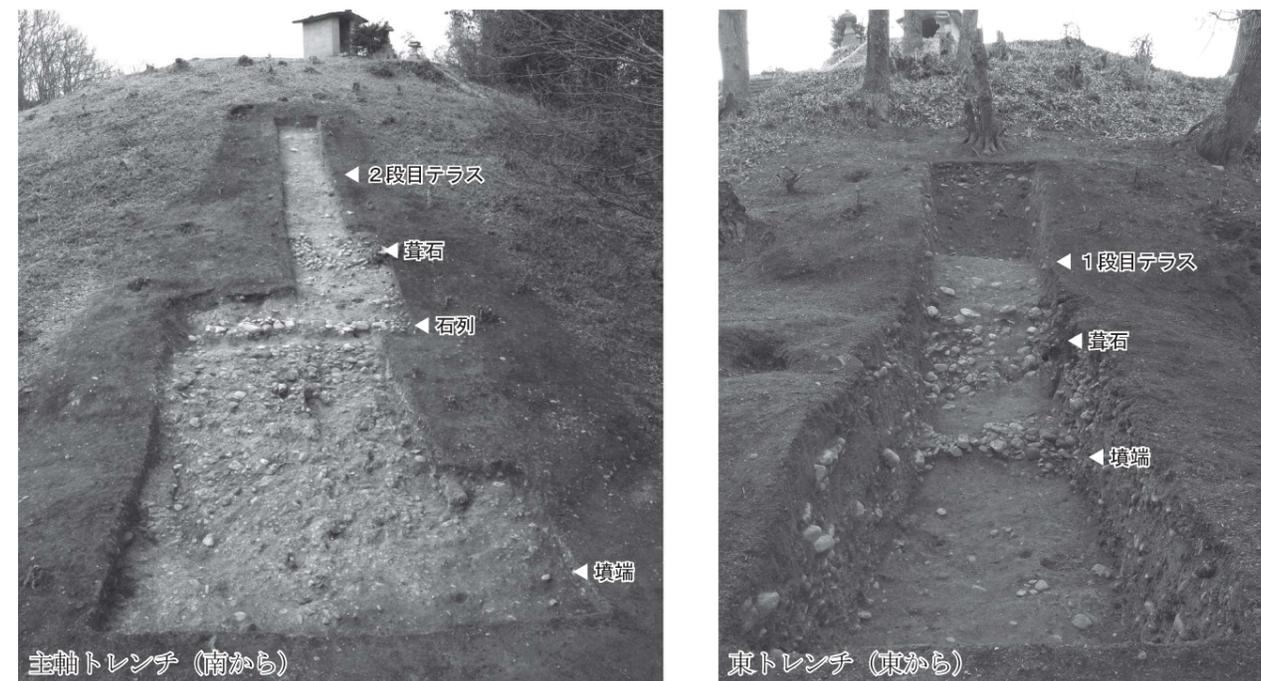


図2 今年度の調査区全景写真

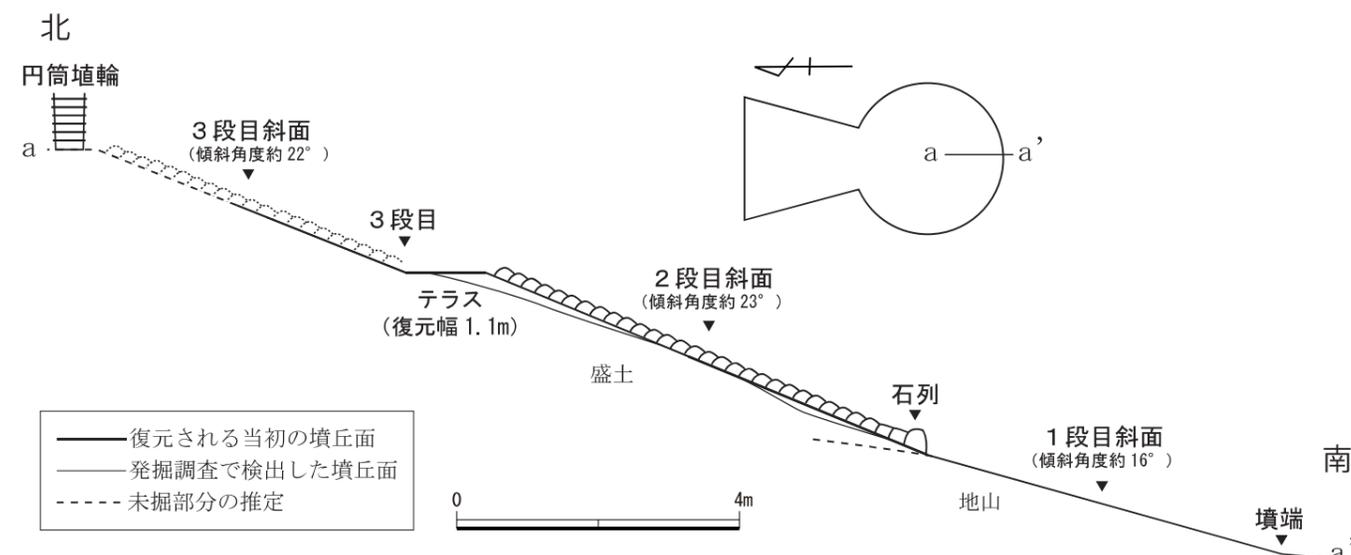


図3 主軸上の後円部墳丘構造の復元



図4 今年度の調査で出土した埴輪



主軸トレンチ 全景（南から）



主軸トレンチ 全景
（南西から）



主軸トレンチ南側（北から）



主軸トレンチ1段目斜面
(南東から)



主軸トレンチ葺石 (西から)



主軸トレンチ テラス(南西から)



東トレンチ 全景（南東から）



東トレンチ テラス（南西から）



東トレンチ 葺石（南西から）



東トレンチ 埴端部
（南西から）



今年度の調査で出土した埴輪

令和 7 年度文化財保護事業計画について

1 事業計画

事業名	内容	実施日	実施場所
文化財保護審議会	〔第 1 回目〕 ・令和 7 年度文化財保護事業計画について他 〔第 2 回目〕 ・令和 8 年度文化財保護事業計画について他	10 月頃 3 月頃	みき歴史資料館
歴史・美術の杜推進事業関係 (1) 啓発関係	歴史ウォーク① 這田村法界寺山ノ上付城跡コース	4 月 17 日	這田村法界寺山ノ上付城跡他
	歴史ウォーク② 近世絵図で歩く三木城跡	5 月 17 日	三木城跡
	歴史ウォーク③ 秀吉本陣跡コース	11 月 23 日	秀吉本陣跡他
	歴史ウォーク④ 吉川町有安・鍛冶屋の文化財コース	2 月 15 日	有安古墳他
	歴史ウォーク⑤ ホースランドパーク周辺付城跡コース	3 月 22 日	明石道峯構付城跡他
(2) みき歴史資料館	企画展① 東播系須恵器の話をしよう	4 月 19 日～ 6 月 22 日	みき歴史資料館
	企画展② 三木の近代と戦争 (仮)	7 月 19 日～ 9 月 28 日	みき歴史資料館
	企画展③ 地域の史料たち 8 (仮)	10 月 18 日～ 12 月 21 日	みき歴史資料館
	企画展④ 描かれた播磨の城郭展 (仮)	1 月 24 日～ 3 月 22 日	みき歴史資料館
	企画展特別講演会、歴史講座、体験教室	随時	みき歴史資料館

	歴史資料館協議会	10月頃 3月頃	みき歴史資料館
(3) 三木城跡及び付城跡・土塁の整備	史跡危険木等伐採	随時	三木城跡及び付城跡・土塁
	発掘調査検討委員会	7月頃 11月頃	みき歴史資料館
	三木城本丸跡・二の丸発掘調査報告書の作成	4月～3月	みき歴史資料館
埋蔵文化財発掘調査等	開発等にかかる緊急調査	随時	市内
埋蔵文化財維持・管理	遺跡管理除草作業 委託業者：(公社)三木市シルバー人材センター 直営：市職員	随時	三木城跡及び付城跡・土塁、正法寺古墳、与呂木青葉台古墳、愛宕山古墳、有安2号墳他
展示公開	別所ふるさと交流館埋蔵文化財展示室において、別所町の遺跡等を紹介	4月～3月	別所町下石野
文化財実態調査	『三木の石造品Ⅳ－志染地区編－』作成のための調査等を実施する。 調査ボランティア 4人	4月～3月	市内

2 講演等派遣事業
未定。随時受付中。

3 図書の発行

書籍の名称	編集・発行	発行部数	発行日
三木市文化研究資料第40集 『三木の石造品Ⅳ－志染地区編－』	三木市教育委員会	300部	3月31日
三木市文化研究資料第41集 『令和4～6年度 三木城本丸跡・二の丸跡発掘調査報告書』	三木市教育委員会	300部	3月31日

4 指定文化財に係る補助事業

事業者	指定文化財の名称	内容
有安自治会	有安 阿弥陀三尊種子板碑 (自然石)	・近接する有安自治会が所有する土地に板碑を移設し、台座に埋設して立てる。
伽耶院	伽耶院	・消防設備保守点検 (県補助随伴)

東光寺	東光寺本堂	・消防設備保守点検（県補助随伴）
歓喜院	歓喜院聖天堂	・消防設備保守点検（県補助随伴）
天津神社	天津神社本殿	・消防設備保守点検（県補助随伴）
稲荷神社	稲荷神社本殿	・消防設備保守点検（県補助随伴）

5 文化関係団体の育成及び活動支援

事業名	内 容	実施日	実施場所
地域文化財総合活用推進事業	<p>伝統文化の保存団体が地域の伝統文化を継承するため実施する伝承者等の養成、用具等の整備、映像記録の作成に対し、文化庁の補助事業によって一定の限度額の範囲で事業支援する。</p> <p>1 伝統文化継承基盤整備事業 祭りの屋台・獅子舞等地域の文化遺産継承のために用いる用具の新調・修理事業 新調・修理した用具を使った体験事業や一般公開を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下町屋台保存会 支援内容 水引幕の修理 ・平田屋台保存会 支援内容 高欄及び飾り金具の修理 ・大手町屋台保存会 支援内容 水引房等の新調 ・御坂神社太鼓保存会 支援内容 水引幕掛金具の修理 ・興治獅子舞保存会 支援内容 獅子舞用具獅子頭等の修理、獅子舞用具油単等の新調 ・下石野青友会 支援内容 獅子舞用具別誂天狗衣装の新調 	4月～3月	市内

国指定史跡三木城跡及び付城跡・土塁の整備について

1 三木城本丸跡の多目的トイレ設置について

国指定史跡三木城本丸跡の上の丸公園に多目的トイレを設置することについて、市議会や総務文教常任委員会において、検討するよう求められている。そこで、その設置の是非について、現状を報告する。

(1) これまでの経過

- | | |
|---------|--|
| 令和4年3月 | 上の丸保育所の解体撤去に伴い、老朽化及び保育所と上下水道を共有していたことにより、使用不能となることを理由に、都市政策課が現地に約1か月間、撤去する旨の予告を掲示した上でトイレを撤去。 |
| 令和5年2月 | 金物資料館のトイレについて、休館日も9時から17時まで使用可能とする。 |
| 令和6年10月 | 文化庁調査官視察。二の丸跡の歴史資料館・堀光美術館に多目的トイレがあることから、トイレの再設置は不要との指導を受ける。 |
| 令和7年1月 | 配管状況を調査。上水道の配管埋設状況は詳細不明であることから、地上に露出する方法での配管は可能である。以前トイレを設置していた場所であれば、下水道は再利用可能である。 |
| 2月 | 仮設多目的トイレの参考見積書を手配。 |
| 3月 | 総務文教常任委員会にて現状を報告。 |

(2) 今後の対応

基礎工事を伴うトイレの設置については、文化庁の許可が必要であることから、設置は困難である。そこで、基礎工事を伴わない仮設トイレの設置であれば、市教委に権限移譲されていることから、審議会において本件について協議の上、方向性を決めたい。

2 みき歴史資料館・堀光美術館の駐輪場について

昭和57年に図書館（現歴史資料館）・堀光美術館の開館に伴い設置した駐輪場について、老朽化していたことから、旧上の丸庁舎周辺建物解体撤去工事に伴い、令和6年3月に屋根と支柱を撤去した。

しかし、約1年が経過し自転車・バイクでの来館者の利便性を考えると、屋根の設置が望ましいという意見が寄せられている。

そこで、その設置の是非について、ひとまず工法を提案する。

(1) 工法（案）

- ・ 撤去した支柱の穴に、新たな支柱を挿入し屋根を敷設する。
- ・ 支柱固定金具を用いて支柱をボルトで地面に固定し、屋根を敷設する。

(2) 今後の対応

これらの工法であれば、基礎掘削工事を伴わないため、市の権限で許可することができる。

ただし、『史跡三木城跡及び付城跡・土塁保存管理計画書』（平成27年3月策定）の現状変更等の取扱基準では、工作物の設置については、「史跡整備もしくは公益上必要なもので、史跡の本質的価値及び景観の保全に影響を及ぼさない場合以外は認められない。」としている。

そこで、審議会において本件について協議の上、方向性を決めたい。

指定範囲：赤

指定等の対象地域の範囲を示す地形図

- ・三木城本丸跡
- ・三木城二の丸跡



仮設トイレ候補地



解体前(南から)



現況(南から)

駐輪場



解体前(北西から)



現況(北西から)